

学校番号	学校名	校長名
45	川崎市立西丸子小学校	筒井 愛子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
自ら考え 正しく判断し 進んで実践する子	◎学習指導要領がめざす児童の資質・能力の育成を図るとともに、組織としての校内支援体制を整備し、全職員で児童の指導、支援にあたる。 ○教職員一人一人の考えや思いを大切にしながら、協力し合う教職員集団をめざす。	①コロナ後を見据えた教育活動の充実 ②一人一人に寄り添う児童理解の推進と支援体制の整備 ③児童の資質・能力の育成と教師の授業力の向上 ④現代的教育課題への対応 ⑤地域に開かれた学校の実現

評価項目	具体的な取組	成果と課題 (○成果 ●課題)	具体的な改善策
1	◎コロナ後の教育活動の整備 ○学校行事、教育活動の精選 ・業務の合理化(脱古い習慣の踏襲)	○水泳学習、西リンピック、校外学習については、必要に応じて、コロナ前の状態に戻すなど、本校の児童の実態に合った実施方法を教職員で協議、検討し、実施することができた。また、体育授業時の服装等は、必要に応じて検討し、変えるようにした。 ●授業参観や学校公開は分散なしで行ったが、学級懇談の時間は、十分に確保することができず、やや不足していた。 ○市や企業が募集する教育活動などを、積極的に活用することで、費用をかけず、児童が効果的に学習する機会を得ることができた。 ○●夢教育21を有効活用し、外部講師による授業を実施することができたが、校内委員会の開催に関しては、次年度以降の学習になるため、難しい部分があった。 ○「こうあるべき」に縛られず、「こうしてみてもどうか。」という提案をする職員が増え、教育活動が活性化している。	・体育授業時の服装を含め、「西丸子小のやくそく」について、今年度も見直しをしてきたが、世の中の様子にそぐわないものは、今後も柔軟に変えていくようにする。 ・授業参観や公開授業以外にも、保護者と教職員とが気軽に対話できるような機会を設けることを検討していきたい。 ・外部講師の招聘については、予算要求の時期を鑑みると、前年度のうちに検討する必要があるため、職員にとっては、なかなか「自分事」になりにくい。そのため、他学年で実施している事業についても、共通理解し、学校全体を考える機会をもつようにしたい。 ・市や企業が行う教育活動に目を向け、費用をかけずに児童が効果的に学習する機会を、今後も増やしていきたい。
2	◎支援教育COを中心とした支援体制の整備 ○児童の自己肯定感と人権意識の向上 ○学級経営の基本を全学級で共有	○児童に支援が必要な場合は、教職員同士、教職員と保護者で丁寧に情報共有を行い、児童の実態や困り感を見出すとともに、必要な場合は関係諸機関とも連携しながら、児童の支援について相談、検討を行い、実践へとつなげることができた。 ●「どこまで報告すべきか。」については、経験年数等の違いから、職員間で温度差がある。 ○各学級の安定を図るため、支援教育COを中心に、毎日校内巡回を行い、複数の目で学級の状況を共有することができた。 ○●ケース会議が必要な場合は、できる限りタイムリーに、短時間で効率的に行なった。児童の情報については、できる限り記録を取り、関係職員で適切に共有しているが、落としてしまうこともあった。 ○必要に応じて、関係諸機関と連携し、支援を進めることができた。 ○いじめ防止につながる恐れのある事案については、担任だけに任せず、児童支援チームで指導の仕方を検討し、共有して進めた。 ○生活スタンダードについては、毎月の職員会議で、情報交換をしながら、実態を踏まえた形で進め、必要に応じて改定した。 ○いじめ案件を進めるうえで、学年任せにせず、組織的に進めた。 ○教科を通して、「いのちの授業」を推進した。	・保護者への連絡では、「ONE TEAM」を意識していただけるよう、課題だけでなく、児童の頑張っている姿や気になる点等も、タイムリーにお伝えしていきたい。そのためには、担任任せにせず、級外の職員も保護者との関係を大切にしていきたい。 ・教科指導の専科制の部分とも共通するが、いろいろな教職員が学級に関わり、児童の様子や学級の雰囲気を見ることがしたい。特に、支援教育においては、COをリーダーとし、チームとして動けるよう、さらに体制を整えていきたい。また、個別対応だけでなく、学級集団に関わる機会を増やし、児童にとって居心地の良い集団を目指したい。 ・関係諸機関との連携では、関係職員でしっかりと情報共有ができるよう、口頭で済ませるのではなく、今年度に引き続き、個人情報等の管理に配慮しながら、しっかりと記録をとり、正しい情報が共有できるような心がけたい。 ・いじめ防止については、全教職員が高い意識をもち、学級でのトラブル事例にとどめず、人権尊重教育とも併せて指導していきたい。また、小さなことでも「これくらい」と考えず、重く受け止め、丁寧に対応していきたい。 ・児童指導に関しては、支援教育COを中心に、全教職員が全児童に関わっていくよう、引き続き進めていきたい。 ・生活スタンダードに関しては、時代や社会情勢に合わせて、常に見直しをしていきたい。
3	◎「聴く子」「考える子」の育成 ○「主体的・対話的で深い学び」の実現	○●校内授業研究では、「地域に関わる学習」「対話」等を重視して進め、ほぼ全クラスが公開授業を行った。1,2年生は生活科、3年生は社会科、4,6年生は総合的な学習の時間、5年生は国語を公開した。学年研究を通して深め、教師の授業力向上につながったが、同一教科ではないこともあり、前回の授業での課題を次回に活かすことが難しい部分もあった。 ○「自力思考」から「集団思考」への流れについては、いろいろな教科で児童に定着している様子が見られ、活発に意見交換をする姿は、多くの外部講師から、異口同音に評価された。 ○算数専科の配置が2年目になり、高学年児童の中には、授業後や休み時間を利用して、積極的に専科教諭に質問に行く姿も見られるようになった。 ○特別支援学級の個別指導計画の「自立活動」に注目し、その子に必要な力を身に付けるための計画を立てることができた。	・校内授業研究では、創立70周年記念事業と無理に絡めようとせず、純粋に「本校の児童に必要な資質・能力を育成すること。」を重視し、共同研究をすすめていきたい。 ・児童の実態を把握し、3つの学習パターンを効果的に授業に取り入れ、教師主導の授業や一問一答式の授業を改善していきたい。 ・特別支援学級の個別指導計画については、一人一人の課題をさらに明確にし、「全国的に、普及しつつある教科担任制の良さを最大限に活かすことができるよう、教職員同士の情報交換、情報共有を徹底していきたい。 ・専科のコメントが、保護者にしっかりと届くようなシステムを構築していきたい。 ・特別支援学級の個別指導計画については、一人一人の課題をさらに明確にし、「集団で育つ部分」「個別に指導が必要な部分」の双方を効果的に活用していきたい。また、学年、学級にとらわれない「異学年集団」としての良さを活かした活動を、さらに取り入れていきたい。

4	<p>◎GIGAスクール構想の推進</p> <p>○働き方改革の推進</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の推進</p>	<p>◎カリキュラムとの関連付けを確認</p> <p>○タブレット端末を授業の中で積極的に活用(ステップ3への移行)</p> <p>○教職員自身の業務でもタブレット端末を積極的に活用</p> <p>○業務の見直しと効率化の推進</p> <p>○専科制を利用した欠員補充やフォロー体制の工夫</p> <p>○キャリア在り方生き方教育と授業との関連付けの確認</p> <p>○市制100周年と本校の創立70周年に向けた準備</p>	<p>○市教委から出されている「かわさきGIGAスクール構想」のステップ3にあたる、「個別最適な学びと協働的な学びの実践」が本年度の目標である。学年によって、児童の実態はさまざまであるが、中、高学年の授業においては、「自力思考」「集団思考」のそれぞれの場面で、効果的に活用されていた。</p> <p>○低学年の授業でも、積極的に使用する場面が見られ、児童、教員ともに、活用に慣れてきた様子がうかがえる。</p> <p>○職員の打合せや研究授業後の会議等では、タブレット端末の活用が定着した。また、学年間のやり取りでも、クラスルームを利用する場面が増えた。</p> <p>○勤務時間内に業務が終了するよう、会議等の時間を検討して進めた。特に、休憩時間をしっかりと確保することで、会議の時間自体は短くなるが、逆に、「時間内に終わらせる」という意識が高まり、会議の効率化を図ることができた。</p> <p>○キャリア在り方生き方教育に関しては、特に銘打っているわけではないが、研究テーマと重なる部分も多かったため、自然に進めることができた。</p> <p>●市制100周年への取組においては、市から要請されたものの実施に留まっている。</p>	<p>・タブレット端末の利用については、市教委の構想によると、来年度は「ステップ3」の「かわさき教育プランの実現に向けて」の段階に進む。学年ごとにGIGA端末をさらに効果的に使用できる教科や単元を洗い出し、ステップ3に向け、全職員で共通理解しながら進めていきたい。</p> <p>・GIGA端末使用時に、サポートの必要な学年に対しては、外部から来校する指導員等も効果的に利用できるよう、計画的に進めていきたい。</p> <p>・教職員が適切な権利を行使することのできる環境を整えたい。また、授業中にも、学年打合せ等ができるよう、さらに専科制の進め方に取入れたい等、研修時間の確保に努めたい。</p> <p>・市制100周年への取組を、さらに進めていきたい。</p> <p>・本校の創立70周年記念事業においては、実行委員会を中心に詳細な計画を立て、児童、地域の皆様を中心とした温かい記念式典の実施に向け、進めていきたい。</p>
5	<p>◎コミュニティ・スクールの立ち上げと推進</p> <p>○学校だより、HP等による教育活動の広報</p> <p>○DX化に向けた改革の推進</p>	<p>◎コミュニティ・スクールの各部会での役割分担と業務内容の確認</p> <p>○学校評価アンケートの効果的な活用</p> <p>○学校だより、HPの内容の充実</p> <p>○ミマモルメ配信メールの効果的な活用</p> <p>○保護者や地域の方と対面する場面を大切にし、学校の教育方針や姿勢を伝えていく。</p> <p>◎DX化へ移行(ペーパーレス化と保護者への周知)</p>	<p>○●学校評価アンケートは、昨年度に引き続き、電子化することで、回答し易くし、配布や回収の煩わしさも省くことができた。その一方で、複数の学校にお子さんが通われるご家庭では、メール配信が重なるため、「見出しに締切日を明記してほしい。」という</p> <p>○本年度は、「わかりにくい。」とご意見をいただいたことで、質問項目の文言を訂正した。</p> <p>○本年度も、本校の教育活動について、保護者の皆様から多くの温かいご意見をいただくことができた。</p> <p>○学校だよりでは、毎月、児童の活動の様子や市内の学校の情報等をお知らせすることができた。</p> <p>○●学校HPを定期的に更新することができたが、更新状況が、学年によって差があるなどのご意見もいただいている。</p> <p>○本年度も、ミマモルメのメール配信を活用する場面が多く、保護者の皆様には、タイムリーに情報をお伝えすることができた。</p> <p>○学校運営協議会を4回開催し、地域の委員の皆様と直接対話をしたり、児童の活動の様子をご覧いただいたりし、情報共有を行うことができた。</p> <p>○多くの場面で、「学校と保護者、地域の皆様とはONE TEAM」という考え方を共有していただくことができた。</p> <p>○PTAの導入した「スクリレ」が定着し、DX化を推進することができた。また、必要な情報をご家庭にお伝えすることができた。</p>	<p>・学校評価アンケートに関しては、できる限り多くの保護者の方にご回答いただけるよう、お知らせを何度か行うなど、さらに工夫していきたい。また、アンケート以外でも、保護者のご意見をお聞きできるような機会を設けたい。</p> <p>・学校だよりや学校HPでは、これまで以上に児童の活動や学校の様子等をお伝えできるよう、努めていきたい。</p> <p>・ミマモルメのメール配信システムを、今後も効果的に活用していきたい。</p> <p>・アンケートでもお書きいただいたが、懇談会以外にも、保護者の皆様同士でも充実した意見交換を行う機会を設定するよう、検討していきたい。</p> <p>・説明会等でお伝えしたことが、参加できなかった保護者にも伝わるよう、周知徹底を図っていきたい。</p> <p>・本年度スタートしたコミュニティ・スクールの体制と、児童の活動と関わることできょうな機会を整理し、委員の皆様と共に検討し、学校教育に活かしていきたい。また、コミュニティ・スクールの機能を、創立70周年記念事業にも、活かしていきたい。</p> <p>・創立70周年記念事業でも、DX化を意識し、時代に合った形で進めていきたい。</p>

学校関係者の評価 (●課題 ○評価)	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>【学校運営協議会】 (学校運営協議会の在り方について)</p> <p>●協議会内の部活動の状況を、委員全体に周知してほしい。 (6年生の委員会の発表をお聞きいただいた感想)</p> <p>○「これからやりたいこと。」が明確で、前進している姿を見ることができた。</p> <p>○委員会活動の中で、コミスクの活動と一緒にできそうなこともあったので、今後に生かしたい。</p> <p>○どの委員会の発表内容も、起承転結がしっかりとできていて、聞きやすかった。また、創造性を感じた。 (学校運営について)</p> <p>○全職員が同じ方向で指導することは大切なので、これからも、「複数の目」で子どもたちを見ていってほしい。(専科制など)いろいろな教員から学ぶことの意義は大きい。</p> <p>○欠員のカバーに奔走している教員たちの姿がありがたい。</p> <p>○小学校で育てられた良い部分は、中学校に進級した後、たとえ少人数でも、浸透していくと思う。</p> <p>【保護者】</p> <p>●お便りの内容が分かりづらい。</p> <p>●子どもの学力状況が分かりづらい。</p> <p>●教員の言葉遣いが良くない。</p> <p>●感染症や学級閉鎖の様子を知らせてほしい。</p> <p>●面談以外に担任と直接話す機会を設けてほしい。</p> <p>●給食の内容を充実させてほしい。値上げもOK。</p> <p>○先生に認めてもらい、笑顔で楽しく、のびのびと通っている。自主的に頑張る姿勢が身についている。</p> <p>○先生の児童への接し方が丁寧で、相談しやすい。学習面、交友面、身体面をバランスよくサポートしてもらっている。</p> <p>○教育活動が充実していて、子どもの意思が尊重され、いろいろな経験ができる。</p> <p>○HPが役立っている。</p> <p>○異学年の子ども同士の微笑ましい関係が校外でも見られる。 (他、教職員への信頼、感謝等のお言葉を多数いただきました。)</p>	<p>◎「地域とともにある学校」の実現</p> <p>・コミュニティ・スクール、創立70周年記念事業の推進</p> <p>○西丸子小学校の規模や状況に合わせた教育活動の充実</p> <p>・授業改革(児童の資質・能力を高める校内研究)</p> <p>・行事、特別授業等の見直し(学年任せではなく学校全体で)</p> <p>・専科制の積極的な導入とさらなる推進(複数の目で児童を見守る。同じ方向での指導を徹底。担任一人の負担を軽減。)</p> <p>○児童支援体制の改革</p> <p>・支援教育COを中心とした支援チームの組織編成</p> <p>・各学級の充実と小さなことでも学級の課題に真摯に向き合う担任の意識改革</p> <p>・一人一人のニーズに合わせた丁寧な指導と支援</p> <p>○地域に開かれた学校</p> <p>・時代に合ったPTA活動との連携(PTA役員との連携)</p> <p>・コミュニティ・スクールを中心に地域の力を活かした学校運営</p> <p>○現代的な教育課題への対応</p> <p>・「かわさきGIGAスクール構想」のステップ3に向けた取組を全職員で共有</p> <p>・情報機器の効果的な利用とDX化に向けた体制の整備(保護者の負担軽減とペーパーレス、市のDX化との連携)</p>